

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3167478号
(U3167478)

(45) 発行日 平成23年4月28日 (2011. 4. 28)

(24) 登録日 平成23年4月6日 (2011. 4. 6)

(51) Int. Cl.

A 6 1 B 5/02 (2006.01)

F 1

A 6 1 B 5/02 3 3 2 K

A 6 1 B 5/02 3 3 8 B

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2010-8224 (U2010-8224)
 (22) 出願日 平成22年12月17日 (2010. 12. 17)
 (31) 優先権主張番号 200920293030.0
 (32) 優先日 平成21年12月18日 (2009. 12. 18)
 (33) 優先権主張国 中国 (CN)

(73) 実用新案権者 510333472
 ビンジュン・ウ
 中華人民共和国、北京 100083、ハイ
 ディアン・ディストリクト、イースト・
 ロード、ファユアン・ナンバー 30、フ
 ァユアン・シャンウフィグアン、ルーム
 6412
 (73) 実用新案権者 510333519
 リメイ・ジャオ
 中華人民共和国、北京 100083、ハイ
 ディアン・ディストリクト、イースト・
 ロード、ファユアン・ナンバー 30、フ
 ァユアン・シャンウフィグアン、ルーム
 6412

最終頁に続く

(54) 【考案の名称】 人体の両腕の血圧を測定する血圧計

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】両腕の血圧を同時に測定することが可能であり、かつ、両腕の血圧値を同時に表示することが可能な血圧計を提供する。

【解決手段】電源手段と、動作ボタン3と、LCD電子ディスプレイ2と、LCD電子ディスプレイ2に設けられたゴムチューブジャック4と、一端がゴムチューブジャックに接続され、他端が血圧計カフ1に接続されたゴムチューブと、を具備する。すなわち、2つのゴムチューブジャック、2つのゴムチューブ及び2つの血圧計カフ1が設けて血圧計とする。この構成により、両腕の血圧を同時に測定することができ、かつ、両腕の血圧値を同時に表示することができる。

【選択図】図2

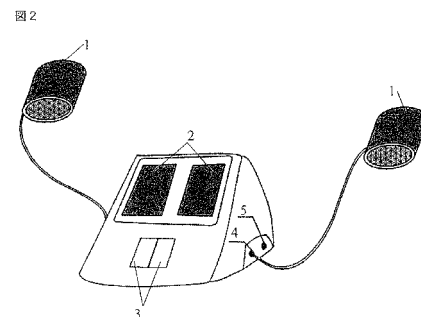


FIG. 2

【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

電源手段と、
動作ボタンと、
ＬＣＤ電子ディスプレイと、
前記ＬＣＤ電子ディスプレイに設けられたゴムチューブジャックと、
一端がゴムチューブジャックに接続され、他端が血圧計カフに接続されたゴムチューブと、を具備する、人体の両腕の血圧を測定するための血圧計において、
２つのゴムチューブジャック、２つのゴムチューブ及び２つの血圧計カフが設けられていることを特徴とする血圧計。

10

【請求項 2】

２つのＬＣＤ電子ディスプレイが設けられていることを特徴とする請求項 1 の人体の両腕の血圧を測定するための血圧計。

【請求項 3】

前記２つのＬＣＤ電子ディスプレイは、並列に設置されていることを特徴とする請求項 2 の人体の両腕の血圧を測定するための血圧計。

【請求項 4】

人体の脈拍を同時に測定することを特徴とする請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 の人体の両腕の血圧を測定するための血圧計。

【考案の詳細な説明】

20

【技術分野】**【0001】**

本考案は、人体の両腕の血圧を同時に測定するための血圧計に関する。

【背景技術】**【0002】**

さまざまな血圧計が久しく知られているが、血圧計はなおも発展しており、人体の両腕の血圧を同時に測定することができる血圧計はない。これは、なぜならば、人々が両腕の血圧を同時に測定することの意義を理解していないからである。伝統的な中国医学の陰陽平衡論によれば、健康な人間の器官及びこれらの働きは、平衡状態にある。人間の器官の平衡でない働きは、さまざまな病気を引き起こす傾向にある。血圧は、人間の器官の働きが平衡であるかどうかを判断するためのキーとなる要因である。従って、「脈拍をとること」（“feeling the pulse”）は、常に、伝統的な中国医学において重要な役割を果たし、また、伝統的な中国医学での病気の診断における主要な判断基準の 1 つである。

30

【0003】

しかし、「脈拍をとる」技術は、正確な判断をするために非常に長い期間の医学的な経験を必要とし、環境や人体のコンディションのような要因によって影響されるので、診断はデジタル化されることができず、診断の結果は正確でない可能性がある。

【0004】

最近では、血圧計による血圧の測定は、伝統的な中国医学の「脈拍をとること」と同じ働きを有し、人間の器官及びこれらの働きは、左腕と右腕との両方の血圧を測定することによって平衡であるかどうかを検出することが可能である。しかし、従来技術では、血圧は、所定の時間、片腕で測定され、時間差及び人体の動きにより、測定されたデータは、十分に正確でない。

40

【考案の概要】**【0005】**

本考案は、両腕の血圧を同時に測定することが可能であり、かつ、両腕の血圧値を同時に表示することが可能な、上述の問題をまさに解決する血圧計を意図している。

【0006】

この考案は、人体の両腕の血圧を測定するための血圧計であって、両腕の血圧を同時に測定することができ、かつ、両腕の血圧値を同時に表示することができる血圧計を提供す

50

る。

【 0 0 0 7 】

電源手段と、動作ボタンと、ＬＣＤ電子ディスプレイと、前記ＬＣＤ電子ディスプレイに設けられたゴムチューブジャックと、一端がゴムチューブジャックに接続され、他端が血圧計カフに接続されたゴムチューブと、を具備する、人体の両腕の血圧を測定するための血圧計において、２つのゴムチューブジャック、２つのゴムチューブ及び２つの血圧計カフが設けられていることを特徴とする。本考案は、両腕の血圧を同時に測定することができる、かつ両腕の血圧値を同時に表示することができる。

【 0 0 0 8 】

さらに、２つのＬＣＤ電子ディスプレイが設けられており、これらディスプレイは、血圧値をより便利にチェックするのを助ける。

10

【 0 0 0 9 】

さらに、前記２つのＬＣＤ電子ディスプレイは、並列に設置され、従って、対称的に設置されることができるので、血圧計は、適切な構造、より小さなサイズを有し、持ち運びが簡単である。

【 0 0 1 0 】

さらに、人体の両腕の血圧を測定するための血圧計は、人体の脈拍を同時に測定する。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 1 】

【 図 １ 】 図 １ は、本考案の両腕用血圧計の構造を示す図である。

20

【 図 ２ 】 図 ２ は、２つの血圧測定カフを示す両腕用血圧計の構造を示す図である。

【 考案を実施するための形態 】

【 0 0 1 2 】

本考案は、人体の両腕の血圧を測定するための血圧計を提供し、この血圧計は、両腕の血圧を同時に測定することができる。以下では、この考案が、図 １ 並びに図 ２ を参照して詳細に説明される。

【 0 0 1 3 】

人体の両腕の血圧を測定するための血圧計は、特に、電源手段と、動作ボタン ３ と、２つのゴムチューブと、２つのゴムチューブジャック ４ と、２つの血圧測定カフ １ と、ＬＣＤ電子ディスプレイ ２ と、を有する。

30

【 0 0 1 4 】

電源手段は、バッテリーホルダと、電源ジャック ５ と、の少なくとも一方であることができる。特に、血圧計に外部電源ジャック ５ が設けられていれば、電力は外部電源によって血圧計に供給され、この場合、電源がなかったり停電（電源異常）時であったりしても血圧計を動作させるように電力が供給される。内部バッテリーの入口ドアは、血圧計の後部に設けられている。

【 0 0 1 5 】

動作ボタン ３ は、血圧計を開始又は停止させるための開始及び停止ボタンを有する。

【 0 0 1 6 】

２つのゴムチューブジャック ４ は、ＬＣＤ電子ディスプレイ ２ に設けられており、ゴムチューブの一端が、ゴムチューブジャックに接続され、また、ゴムチューブの他端は、血圧測定カフ １ に接続される。２つのゴムチューブ及び２つのゴムチューブジャックがあるので、これらは、両腕の血圧を測定するために２つの血圧測定カフに接続される。

40

【 0 0 1 7 】

２つの血圧測定カフ １ は、ユーザの両腕の血圧を同時に測定するために使用される。使用の際、これらカフは、左腕及び右腕の周りにそれぞれ巻かれ、自動的に圧力を上昇させることが可能である。

【 0 0 1 8 】

ＬＣＤ電子ディスプレイ ２ は、両腕の血圧値を表示する。このＬＣＤ電子ディスプレイは、両腕の血圧値を同時に表示するように、２つの血圧測定カフの両端に接続される。さ

50

らに、２つのＬＣＤ電子ディスプレイを設けることが可能であり、これらディスプレイの各々は、血圧測定カフに接続され、測定後、２つのＬＣＤ電子ディスプレイが、血圧値を同時に表示する。２つのＬＣＤ電子ディスプレイが設けられたとき、これらは、両腕の異なる血圧値、及びこれら値によって反映されるようなユーザの人体の器官の平衡状態を正確に観測するように、並列に配置される、すなわち、図１によって示されるように並列に設置されることができる。

【００１９】

人体の両腕の血圧を測定するための血圧計は、人体の脈拍を同時に測定することができる。

【００２０】

上で述べられた説明の結果として、当業者によって明らかに理解されるように、本考案の本質部分から実質的に逸脱することなく、さまざまな変形及び変更が、好ましい実施の形態になされることができ、また、全ての変形及び変更は、実用新案請求の範囲に含まれる。

10

【図１】

図１

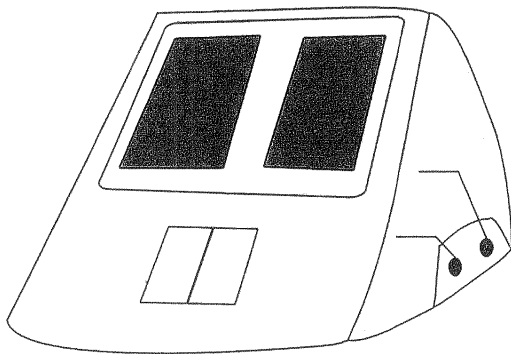


FIG. 1

【図２】

図２

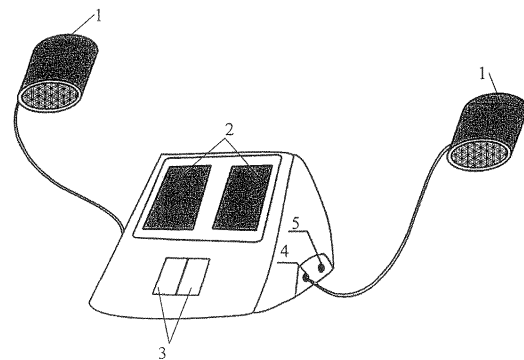


FIG. 2

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月22日(2011.2.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

電源手段と、

動作ボタンと、

L C D 電子ディスプレイと、を具備する、人体の両腕の血圧を測定するための血圧計において、この血圧計は、さらに、

各々の組が、1つのゴムチューブジャック、1つのゴムチューブ及び1つの血圧計カフからなる2つの組を有し、

前記各々の組において、前記ゴムチューブジャックが、前記L C D 電子ディスプレイに設けられ、前記ゴムチューブの一端が、前記ゴムチューブジャックに接続され、前記ゴムチューブの他端が、前記血圧計カフに接続されていることを特徴とする血圧計。

【請求項 2】

電源手段と、

動作ボタンと、を具備する、人体の両腕の血圧を測定するための血圧計において、この血圧計は、さらに、

各々の組が、1つのL C D 電子ディスプレイ、1つのゴムチューブジャック、1つのゴムチューブ及び1つの血圧計カフからなる2つの組を有し、

前記各々の組において、前記ゴムチューブジャックが、前記L C D 電子ディスプレイに設けられ、前記ゴムチューブの一端が、前記ゴムチューブジャックに接続され、前記ゴムチューブの他端が、前記血圧計カフに接続されていることを特徴とする血圧計。

【請求項 3】

前記2つの組の各々に設けられたL C D 電子ディスプレイは、互いに並列に設置されていることを特徴とする請求項2の人体の両腕の血圧を測定するための血圧計。

【請求項 4】

人体の脈拍を同時に測定することを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1の人体の両腕の血圧を測定するための血圧計。

フロントページの続き

- (74)代理人 100108855
弁理士 蔵田 昌俊
- (74)代理人 100091351
弁理士 河野 哲
- (74)代理人 100088683
弁理士 中村 誠
- (74)代理人 100109830
弁理士 福原 淑弘
- (74)代理人 100075672
弁理士 峰 隆司
- (74)代理人 100095441
弁理士 白根 俊郎
- (74)代理人 100084618
弁理士 村松 貞男
- (74)代理人 100103034
弁理士 野河 信久
- (74)代理人 100140176
弁理士 砂川 克
- (72)考案者 ビンジュン・ウ
中華人民共和国、北京 1 0 0 0 8 3、ハイディアン・ディストリクト、イースト・ロード、ファ
ユアン・ナンバー 3 0、ファユアン・シャンウフイグアン、ルーム 6 4 1 2
- (72)考案者 リメイ・ジャオ
中華人民共和国、北京 1 0 0 0 8 3、ハイディアン・ディストリクト、イースト・ロード、ファ
ユアン・ナンバー 3 0、ファユアン・シャンウフイグアン、ルーム 6 4 1 2